

阪南市埋蔵文化財報告XII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要VII



1992年3月

阪南市教育委員会

## は　し　が　き

私たちの阪南市は、昨年10月に市制をむかえたばかりの新しい市です。

明治期の町村制度が確立して以来数度の合併をくりかえし、1972年に南海町と東鳥取町が合併して阪南町が誕生しました。この時の人口が32,000人余り。そして19年を経た市制施行時の人口が約54,000人。この間、年間1,000人を超えるペースで人口の増加がありました。こうした人口増加の背景には、さまざまな住宅建築等の増加があり、各種の開発行為があります。

教育委員会では、文化財を保護する立場から、このような開発行為に伴って消えゆく運命にある埋蔵文化財を守るべく、工事着手前に緊急の発掘調査等を実施しています。今年度は、この調査件数が約40件にも達し、ここ数年増加の一途をたどりつつあります。昨年来「バブル経済」がはじけたとはいえ、「生産緑地法」の施行等により、開発行為が減少する傾向がみられないことから、このような調査件数の増加は、少なくともここ数年は続くものと思われます。今後とも文化財保護の立場に立って、行政を充実していく所存です。

今回ここに報告を行いますのは、上述した調査のうち、国庫補助の対象となった個人住宅等の建築に伴って実施した発掘調査によるものです。平野寺（長楽寺）跡をはじめ、9遺跡、15地区の調査報告です。いずれも小規模な調査ではありますが、貴重な成果がありました。市内の文化財を知る上で活用していただければ幸いです。

末筆ではありますが、調査に御協力下さった土地所有者ならびに関係者に感謝いたしますと同時に、今後とも文化財の保護にご理解、ご協力をお願ひいたします。

1992年3月

阪南市教育委員会

教育長 庄司 菊太郎

## 例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成3年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、光石鳴巳、同嘱託職員田中早苗を担当者として実施した。
3. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と、協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
4. 本書の執筆は、上記の調査担当者が行い、編集は、調査担当者での協議の上、主に三好、光石が行った。また、実測図等の作成は、田中をはじめとして下記の調査従事者による。
5. 本書内に示した標高は、T. Pであり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
6. 本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

### (調査従事者)

宇沢克之、堀川武良、寺田久一、橋本康之、木下楠治、和田旬世、上野 仁、小林克子、佐野有香、戸崎美津弘、石橋孝広、上田 聰、問谷由春、丹羽 徹、渡邊綾香

## 目 次

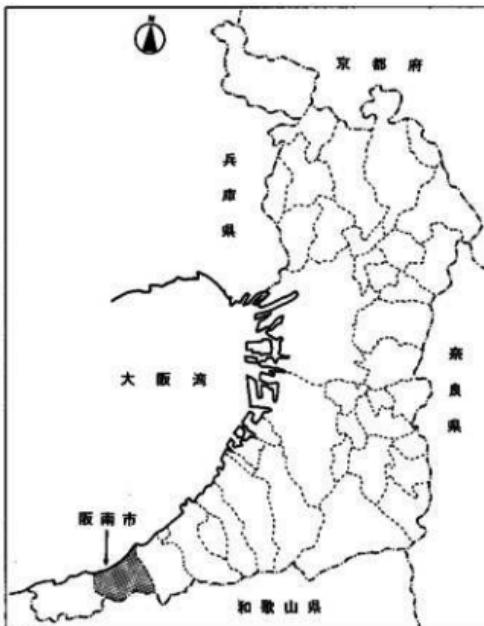
### はしがき

第1章 調査に至る経過	1
第2章 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	
第1節 平野寺（長楽寺）跡	91-1区 6
第2節 馬川遺跡	90-3区 7
	91-1区 9
第3節 黒田西遺跡	91-1区 10
第4節 神光寺（蓮池）遺跡	91-2区 11
第5節 鳥取南遺跡	91-2区 11
	91-3区 12
第6節 西鳥取遺跡	90-2区 13
	91-1区 13
第7節 戻遺跡	91-1区 14
	91-2区 15
第8節 箱作今池遺跡	90-7区 16
	90-8区 16
	91-5区 18
第9節 田山遺跡	91-2区 18

# 第1章 調査に至る経過

阪南市は大阪府南部に位置し、ここ近年、大阪市のベッドタウンとして人口が急増し、昨年10月には市制を施行した。このような状況で住宅建設等の開発行為も増加している。

教育委員会では、昭和60年度より個人住宅建築に先立ち、国庫補助をうけて発掘調査を実施している。今年度は、田山遺跡、馬川遺跡をはじめとする遺跡内において十数箇所の地点で調査を実施した。以下においてその概要を報告する。



第1図 阪南市位置図

## 第2章 歴史的環境

大阪府南西部に位置する阪南市は、南に和泉山脈をひかえ、北に大阪湾を望む。和泉山脈から派生する低丘陵の間を縫うようにいくつかの河川が流れ、それぞれに段丘や沖積地を形成して大阪湾へ流入している。<sup>(1)</sup> 新興住宅地として開発された丘陵部を除けば、人々の生活の場はこうした台地や低地部が主であり、現在周知されている埋蔵文化財包蔵地の分布も、多くはこれに一致する（第2図）。ここではまず、それら河川の流域ごとに考古資料を概観しておきたい。

市域の東を隔する男里川の下流域には沖積地が形成され、阪南市でも最大の平地部である。この流域に立地する諸遺跡のなかには、縄文時代の遺物を出土するものが知られている。馬川北遺跡で後晩期の土器片が出土しているほか、各種石器の出土が馬川、向出、自然田などの諸遺跡で知られている。また、対岸の泉南市男里遺跡においても晩期の土器が出土しており、縄文人達の活動範囲が男里川下流域にまで及んでいたことが推定される。しかし、続く弥生時代も通じて、遺物の量も決して多くはなく、遺構も確認されていないことから、その定住性については依然慎重な態度を要するであろう。古墳時代後期は、男里川流域が最も脚光を浴びる時期であり、小規模ながら高田山古墳群（4基）、玉田山古墳群（2基）<sup>(2)</sup> が断続的に造営される。しかし、周辺での古墳時代の集落の存在を示す遺物、遺構は知られておらず、古墳時代の様相には不明な点が多い。なお、古代には平野寺が造営されたという記事も見受けられるが、考古資料の上からはその詳細は明らかではない。

現在の石田、鳥取の両地域には目立った河川は存在しないが、中世の構築との伝承もある蓮池が、この地域の景観を形成する大きな要素となっている。地形の成因からは前記の男里川流域に含めて考えてよい地域であるが、遺跡分布の隔たりを考慮して、ここでは、神光寺（蓮池）遺跡と海側の鳥取周辺の諸遺跡をまとめて考えておきたい。前記の蓮池は有茎尖頭器の出土地点としても知られている。この有茎尖頭器は、幅広のいわゆる「柳又型」と呼ばれてきた形態で、この地域の歴史が縄文草創期にまで遡る可能性を示唆するものである。しかし、単独の出

土であることと、後続の資料を欠くことから、位置付けはやや不安定にならざるを得ない。弥生時代については、神光寺(蓮池)遺跡で中期の方形周溝墓が確認されているほか、数箇所で遺物の出土が知られており、この周辺は弥生文化資料の分布密度が比較的高い地域ということができよう。

概ね東西に長い阪南市の海岸線において、そのほぼ中央付近に、花折川、釈迦坊川によって形成された平地が広がる。ここでは貝掛遺跡、金剛寺遺跡の調査が行われており、かつて近世集落が存在したことが明らかとなっている。

茶屋川水系に連なる飯ノ峯川流域では、南北朝期の山城、井山城址が上流域にあたる山地部に築かれたことが知られている。近世になると和泉砂岩の採掘の行なわれたミノバ石切場が操業を開始し、それに伴い中流域にはその工人集団によって集落が営まれ、飯ノ峯烟遺跡として知られている。これら諸遺跡については、近年、(財)大阪府埋蔵文化財協会による調査が行われており、特に井山城址とミノバ石切場跡は、当該遺跡の全貌の判明した数少ない調査例として阪南市の歴史を特徴づけている。下流域においては、これらの河川によって形成された扇状地のかなりの部分に箱作今池遺跡があてられている。遺物の上からは古代、中世の集落が存在した可能性が指摘できるが、実態は不明である。また、近年周知された田山東遺跡についてもこの流域に含めて考えてよいかもしれない。

阪南市南西部、田山川下流域の扇状地部分を占める田山遺跡は、その立地から推察されるように、漁撈集落としての色彩がこい遺跡である。遺物や遺構からは奈良時代と中世にその興隆期を認められる。

以上に述べたように、人々の活動は男里川流域、もしくはその周辺の平野部で開始され、西部の開発はやや遅れるようである。また、特には触れなかったが、中世以降の遺物は多くの遺跡で出土しており、海浜近くでは漁撈活動の盛んであったことも読み取れる。次章で述べる本年度の調査の成果を加えても、必ずしも充分な情報が得られているとは言い難いが、これが阪南市の歴史像をより鮮明なものにする助けになればと願う次第である。

註

- (1)前田 界(1977)「自然地理」『阪南町史』下巻
- (2)西山要一(1980)『淡輪磯山古墳群』(磯山古墳群調査会)
- (3)田中英夫(1983)「採集と狩猟の時代」『阪南町史』上巻
- (4)(財)大阪府埋蔵文化財協会(1988)『井山城跡』  
同 (1988)『ミノバ石切場跡』



- 西宮市内外埋蔵文化財分布図
- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1 皿田池古墳      | 37 版ノ茶畠遺跡 |
| 2 平野寺(長桑寺)跡  | 38 金剛寺遺跡  |
| 3 高田山古墳群     | 39 馬川遺跡   |
| 4 南山遺跡       | 40 內畠遺跡   |
| 5 玉田山古墳群     | 41 下出北遺跡  |
| 6 玉田山遺跡      | 42 堂堂遺跡   |
| 7 寺田山遺跡      | 43 向出遺跡   |
| 8 岩崎山遺跡      | 44 久保田遺跡  |
| 9 石田山遺跡      | 45 高田西遺跡  |
| 10 塚谷古墳群     | 46 高田南遺跡  |
| 11 指作古墳      | 47 向山遺跡   |
| 12 三昧谷遺跡     | 48 小口谷遺跡  |
| 13 三升五合山遺跡   | 49 西畠遺跡   |
| 14 貝掛遺跡      | 50 正方寺遺跡  |
| 15 光寺(蓮池)遺跡  | 51 黒田南遺跡  |
| 16 田山遺跡      | 52 黒田西遺跡  |
| 17 今池遺跡      | 53 烏政道跡   |
| 18 田山遺跡      | 54 烏取北遺跡  |
| 19 太郎遺跡      | 55 烏取南遺跡  |
| 20 神光寺(蓮池)遺跡 | 56 西烏取道跡  |
| 21 田山遺跡      | 57 衣遺跡    |
| 22 田山遺跡      | 58 田山東遺跡  |
| 23 指作今池遺跡    | 59 箱作南遺跡  |
| 24 茅屋遺跡      | 60 山中涙遺跡  |
| 25 茅屋遺跡      | 61 馬川北遺跡  |
| 26 四郎太郎遺跡    | 62 和泉鳥取遺跡 |
| 27 稲丸遺跡      | 63 福島遺跡   |
| 28 井山塚跡      | 64 下出遺跡   |
| 29 箱作二八石切場跡  |           |
| 30 道谷遺跡      |           |
| 31 新牛飼谷石切場跡  |           |
| 32 玉田山須恵器窯跡  |           |
| 33 井岡遺跡      |           |
| 34 井岡遺跡      |           |
| 35 自然田遺跡     |           |
| 36 新牛飼谷石切場跡  |           |

# 第3章 調査の成果

## 第1節 平野寺(長楽寺)跡

### 91-1区

#### 調査の概要 (図版1)

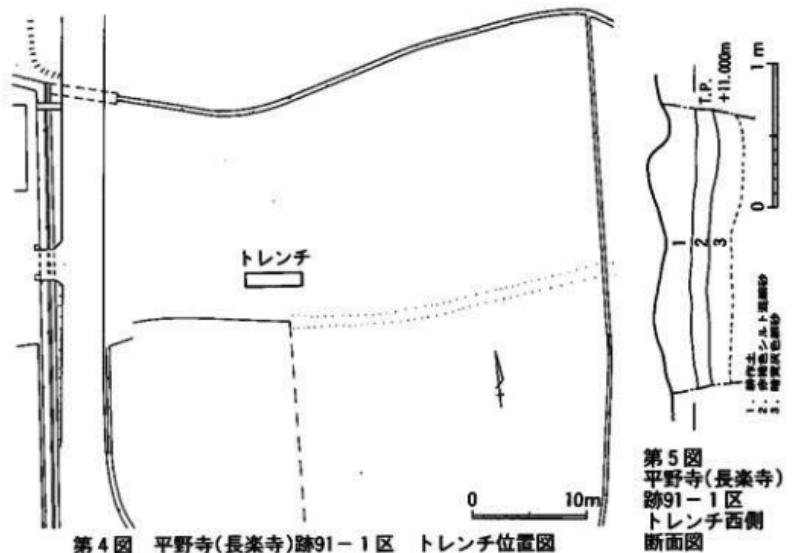
調査区は、現在の長楽寺の寺地となっている丘陵の西麓の区画にあたる（第3図）。当初、調査区中央付近に2m×4mのトレンチを設定して調査を行ったが（第4図）、30cm程掘り下げる砂の堆積が見られるのみであった（第5図）。トレンチの一部についてさらに深掘りを行ったところ、砂の堆積は1m近くにおよぶことが確認され、また湧水も激しくなった。このため、その時点で調査は終了することとした。遺構・遺物とともに確認されていない。

なお、調査地周辺は過去、戦後に至るまで河川の氾濫による被害を度々受けている地域であり、今回の調査で見られた厚い砂層もこうした氾濫の所産と考えて



第3図 平野寺(長楽寺)跡調査区位置図

差し支えないであろう。

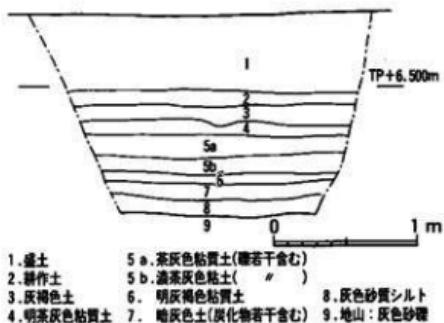
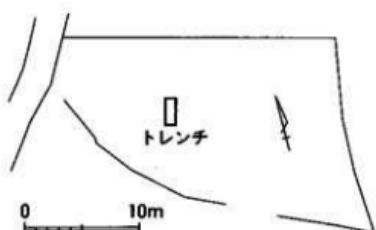


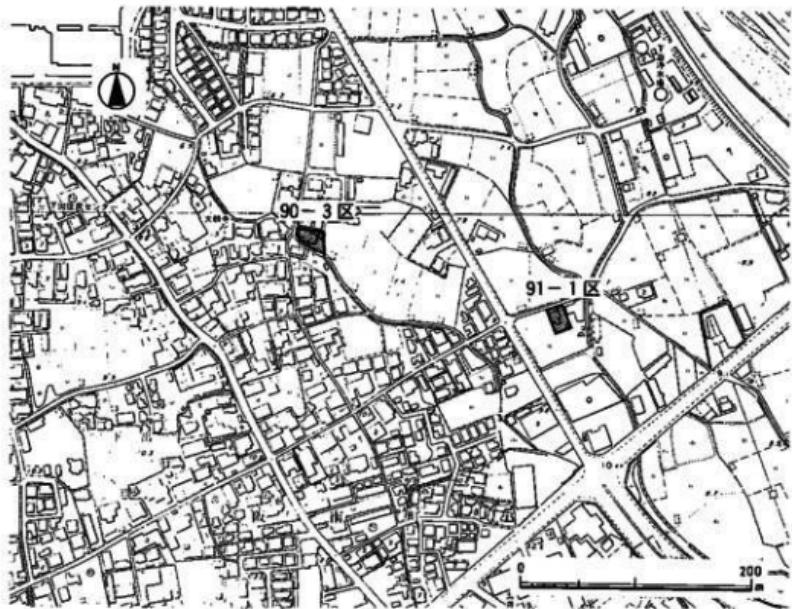
## 第2節 馬川遺跡

### 90-3区

#### a. 調査の概要 (図版2)

調査区は、馬川遺跡の東南部に位置し、1989年の調査で複弁蓮華文軒丸瓦が出士した地区的約100m南方にあたる (第8図)。調査は、調査区に1m×





第8図 馬川遺跡調査区位置図

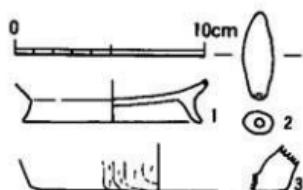
2.5mのトレンチを設定して実施した(第6図)。

近年の盛土、耕作土以下で層厚90cm程度の遺物包含層を確認した(第7図)。この包含層からは、サヌカイトの剝片や土師質土器、瓦質の管状土錘などが出土している。遺構は確認されなかった。この包含層の下位は地山と思われる砂礫層であった。

#### b. 遺物(図版2)

遺物包含層から、前述のように土師質土器等が出土している。このうち図化し得たものは、以下の3点であった(第9図)。

1は、土師質の高台部で、壇と思われる。2は、瓦質の管状土錘で完形品である。3は、陶器の底部で、甕あるいは鉢のものと思われる。



第9図 馬川遺跡90-3区  
出土遺物

## 91-1区

### 調査の概要（図版3）

調査区は、馬川遺跡の南部に位置する（第8図）。調査区内に1.5m×3mのトレンチを設定して調査を実施した（第10図）。

近年の盛土が60cmにおよび、さらに現代の耕作土を20cmほどはさんで、遺物包含層に達した（第11図）。厚さ50cm程度で、土師器片などが出土している。遺構は確認されなかった。

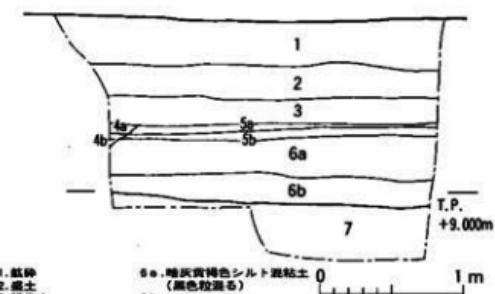
この包含層の下位は男里川の氾濫原と思われる疊層で、トレンチの一部でさらに掘り下げを行った。その際に土器片の出土を見たため、この疊層も遺物包含層である可能性が考えられ、精査を行った。

しかし、この疊層の上面に凹凸があることもあって、確実に疊の間に遺物が含まれるものかどうかは断定できなかつた。この時点で掘削深度が1.7mを超えており、それ以上の掘削が困難なこともあって調査を終了することとした。

なお、上述のように包含層から土師質土器、土師質の蛸壺、磁器、瓦等が出土したが、いずれも細片のため図示できなかった。



第10図 馬川遺跡91-1区 トレンチ位置図



第11図 馬川遺跡91-1区 トレンチ西側断面図

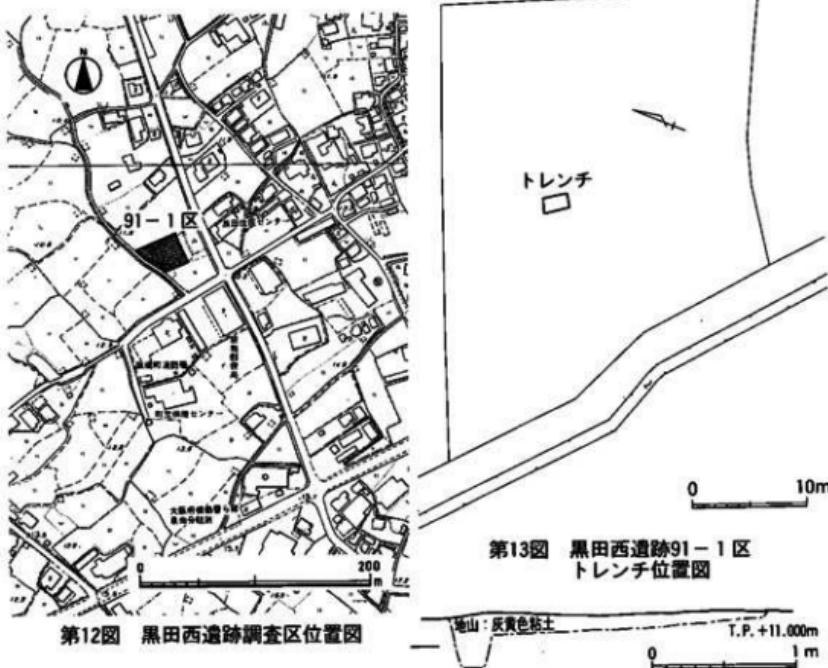
### 第3節 黒田西遺跡

#### 91-1区

##### 調査の概要（図版4）

調査区は、黒田西遺跡の東端部に位置している（第12図）。黒田西遺跡は、分布調査により確認された遺跡であるが、これまでの同遺跡内での調査例はない。当調査区の南方に位置する黒田南遺跡では、以前に店舗建築に伴い調査が実施されている。この時の調査では、遺構は検出されなかったものの、中世期の遺物が出土している。

調査は、調査区中央部に $1.5m \times 2.5m$ のトレンチを設定して実施した（第13図）。耕作土直下が灰黄色粘土の無遺物層であった（第14図）。遺構、遺物とも検出されなかった。



第12図 黒田西遺跡調査区位置図

第13図 黒田西遺跡91-1区  
トレンチ位置図

第14図 黒田西遺跡91-1区  
トレンチ東側断面図

## 第4節 神光寺(蓮池)遺跡

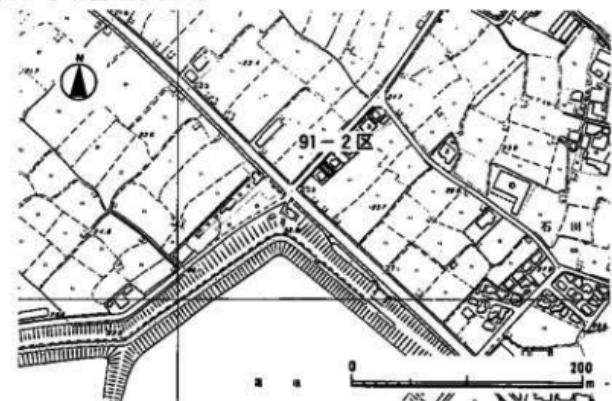
### 91-2区

#### 調査の概要

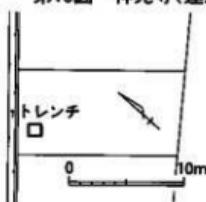
(図版4)

今回の調査区は、神光寺(蓮池)遺跡のはば中央部に位置し(第15図)、縄文時代草創期のものとされる有茎

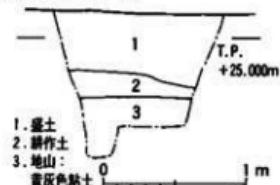
尖頭器が採取された蓮池の北方40mほどの地点にある。調査は、調査区北西端に1.5m四方ほどのトレンチを1ヵ所設定して実施した(第16図)。近年の盛土、耕作土下が黄灰色粘土の無遺物層であった(第17図)。遺構、遺物とも検出されなかった。



第15図 神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図



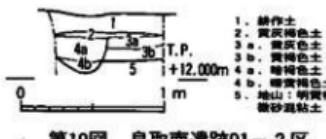
第16図 神光寺(蓮池)遺跡91-2区トレンチ位置図



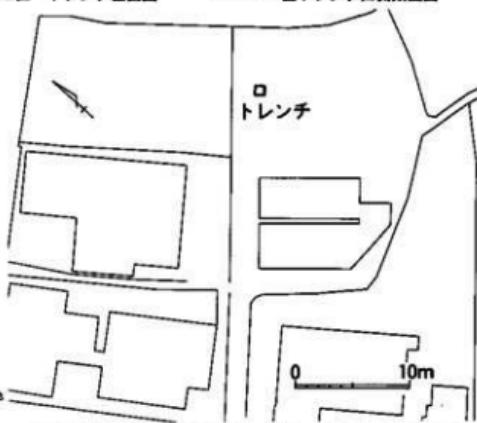
第17図 神光寺(蓮池)遺跡91-2区トレンチ西側断面図

## 第5節 鳥取南遺跡

### 91-2区



第19図 鳥取南遺跡91-2区トレンチ北側断面図



第18図 鳥取南遺跡91-2区 トレンチ位置図

### 調査の概要（図版5）

調査区は、鳥取南遺跡の北部に位置する（第20図）。調査区の北端近くに1m四方ほどのトレンチを1ヵ所設定して調査を実施した（第18図）。遺構は検出されず、出土した土器も細片のみで、時期の決定も困難である。

### 91-3区

#### a. 調査の概要（図版5・6）

遺跡の北部、前述の91-2区の50mほど西に位置する調査区である（第20図）。2m×2mのトレンチを設定して調査を実施した（第21図）。耕作土以下3層の遺物包含層が確認され（第22図）、数片の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。

#### b. 遺物（図版6）

図化できた遺物は土師質の土錘のみである（第23図）。この他、須恵器、土師質土器、土師質の蜻蛉片等が出土したが、細片である。



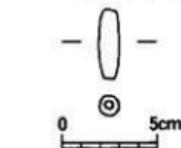
第20図 鳥取南遺跡調査区位置図



第21図 鳥取南遺跡91-3区  
トレンチ位置図



第22図 鳥取南遺跡91-3区  
トレンチ北側断面図



第23図 鳥取南遺跡91-3区  
出土遺物

## 第6節 西鳥取遺跡

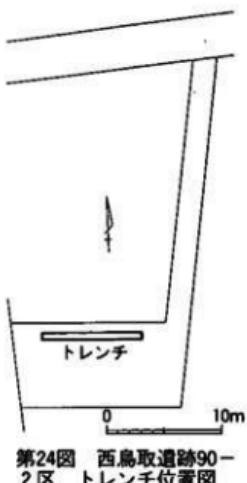
### 90-2区

#### a. 調査の概要（図版7）

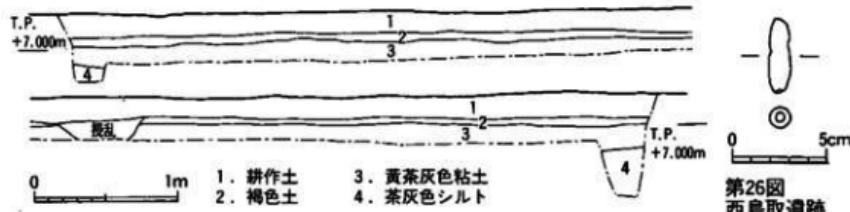
調査区は、西鳥取遺跡の北端部に位置している（第27図）。調査区に1m×9mのトレーニングを設定して調査を実施した（第24図）。耕作土以下に遺物包含層が確認され（第25図）、土錘、瓦片等數十片の遺物が出土した。遺構は検出されなかった。

#### b. 遺物（図版7）

図化できたのは土師質の管状土錘で、完形品である



第24図 西鳥取遺跡90-2区 トレーニング位置図



第25図 西鳥取遺跡90-2区 トレーニング北側断面図

（第26図）。この他、須恵器片をはじめ、中世のものと思われる丸瓦、土師質の竈壠等についても出土しているが、いずれも細片である。



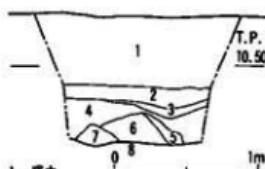
第27図 西鳥取遺跡・戎遺跡調査区位置図

## 91-1区

### 調査の概要（図版8）

調査区は西鳥取遺跡の北部に位置する（第27図）。調査は、調査区内に1.5m×1.5mのトレントを1ヵ所設定して実施した（第28図）。基本的な層序は、次のとおりである（第29図）。第1層は近年の盛土、第2・3層は遺物包含層。第4層は無遺物層である。第3層はその堆積状況から流路の一部の可能性も考えられる。

第2層から土師器片、第3層から土師器、須恵器片等が出土したが、図示できなかった。

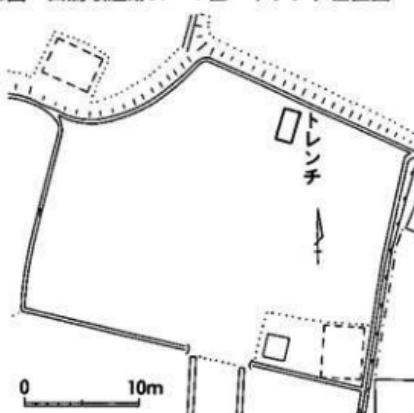


1. 盛土
  2. 暗褐色砂質シルト(致緑色粘土混り)
  3. 深灰色粘土(致緑色粘土混り、マンガン混在)
  4. 異形成分(茶褐色砂混り)
  5. 褐灰褐色砂
  6. 茶褐色粘土
  7. 明緑色粘土
8. 地山：明緑色粘土  
(淡灰色粘土混り、マンガン较少含む)

第29図 西鳥取遺跡91-1区  
トレント西側断面図



第28図 西鳥取遺跡91-1区 トレント位置図



第30図 戻遺跡91-1区 トレント位置図

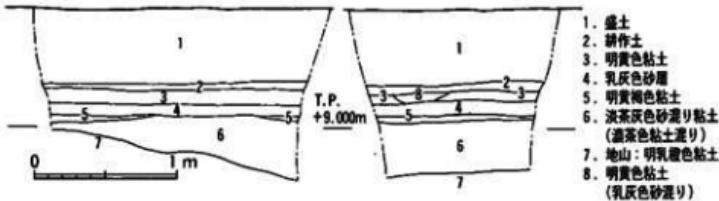
## 第7節 戻遺跡

### 91-1区

#### 調査の概要（図版10）

調査区は戻遺跡の南部に位置している（第27図）。調査は、調査区

東端に  $1\text{m} \times 1.5\text{m}$  のトレンチを 1ヶ所設定して実施した（第30図）。基本的な層序（第31図）は盛土、耕作土を含めて 7 層で、第 4 層・第 6 層から遺物が出土している。第 4 層から須恵器、土師質管状土錘、染付磁器、第 6 層からは土師器、陶磁器が出土しているが、図示できるものはなかった。



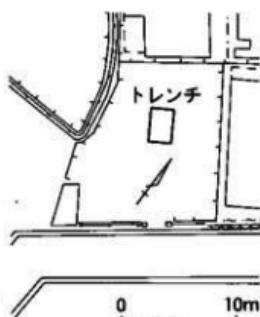
第31図 戻遺跡91-1区 南側(左)西側(右)トレンチ断面図

## 91-2 区

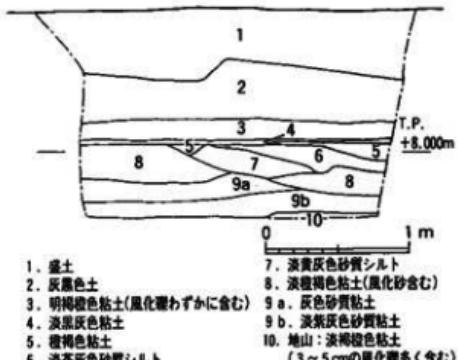
### a. 調査の概要 (図版 8・9)

調査区は戻遺跡の南部に位置している（第27図）。調査は、調査区のはば中央に  $2\text{m} \times 3\text{m}$  のトレンチを 1ヶ所設定して実施した（第32図）。基本的な層序は、第 1 層盛土、第 2 層耕作土を含めて 7 層である（第33図）。第 5・6 層は遺物包含層で、第 7 層は無遺物層である。

遺構は検出されなかった。



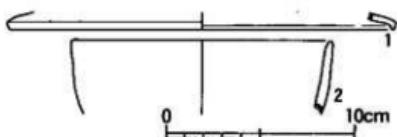
第32図 戻遺跡91-2区  
トレンチ位置図



第33図 戻遺跡91-2区 トレンチ東側断面図

### b. 遺物 (図版9)

第5層からは土師器、平瓦、第6層からは土師器、須恵器、瓦器、陶器片等が出土したが、図示できるものは第6層から出土した須恵器2点である (第34図)。1は、坏蓋の口縁部、2は、坏身の口縁部である。



第34図 戻遺跡91-2区 出土遺物

## 第8節 箱作今池遺跡

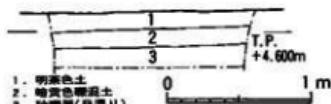
### 90-7区

#### 調査の概要

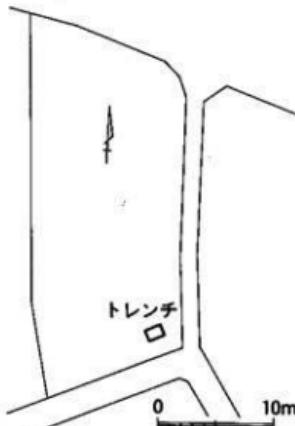
(図版12)

#### 本調査区

は、箱作今池遺跡90-7区  
トレンチ北側断面図



端部に位置し (第38図)、現在の海岸線まで數十 m の距離にある。調査区に 1 m × 1.5 m のトレンチを設定し調査を実施した (第35図)。近年の整地土約 25 cm の直下は、砂層で遺物、遺構とも検出されなかった (第36図)。

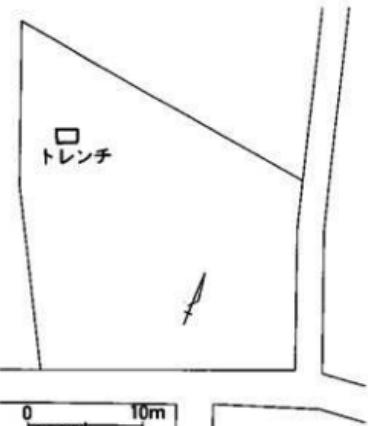


第35図 箱作今池遺跡90-7区  
トレンチ位置図

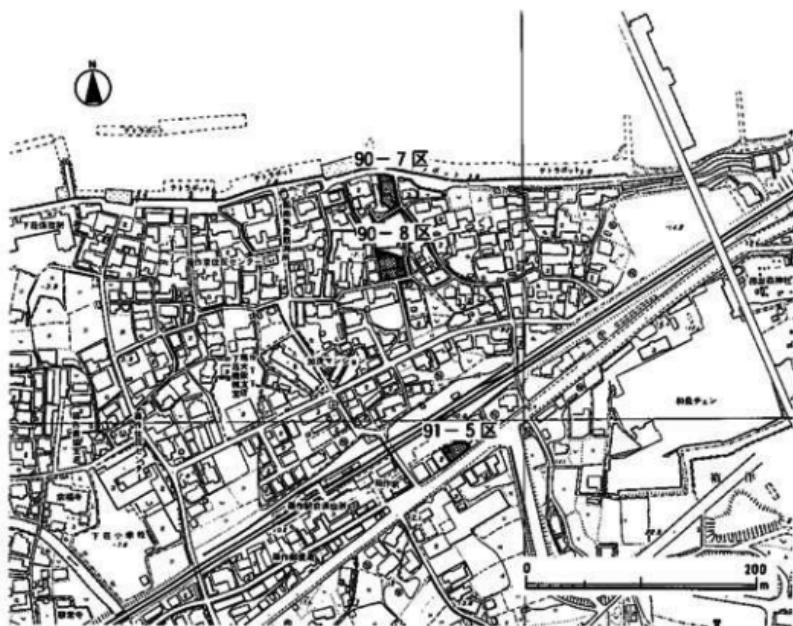
### 90-8区

#### a. 調査の概要 (図版11)

本調査区は、箱作今池遺跡の北端部に位置し (第38図)、前述の90-7区の南方数十 m の地点である。調査区に 1.5 m × 2 m のトレンチを設定して調査を実施した



第37図 箱作今池遺跡90-8区  
トレンチ位置図

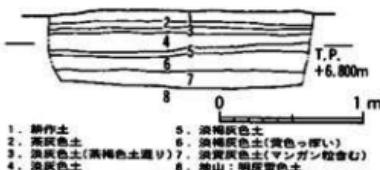


第38図 今池遺跡調査区位置図

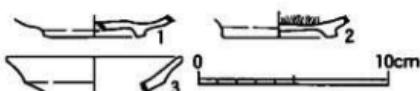
(第37図)。耕作土以下に約40cmの遺物包含層が認められた(第39図)。この遺物包含層から土師器、須恵器、瓦器等数十片が出土した。遺構は検出されなかった。

#### b. 遺物 (図版11)

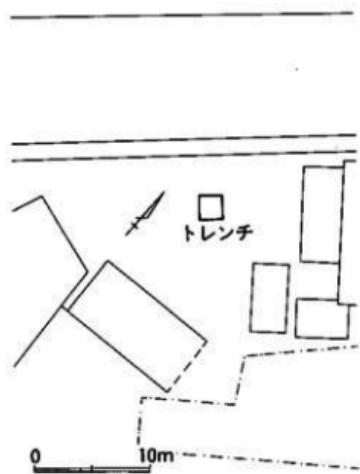
1は、黒色土器塊の高台部分で、内面のみに炭素の吸着がみられるいわゆるA類とされるものである。内面には密にヘラミガキが施されている。2は、瓦器塊の同じく高台部である。3は、同じく瓦器塊の口縁部である(第40図)。



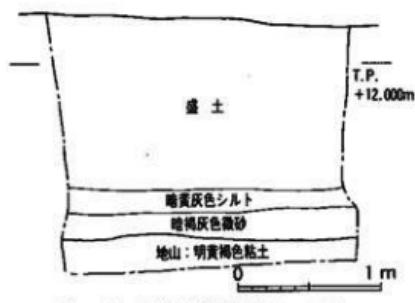
第39図 箱作今池遺跡90-8区  
トレンチ南側断面図



第40図 箱作今池遺跡90-8区 出土遺物



第41図 箱作今池遺跡91-5区  
トレンチ位置図



第42図 箱作今池遺跡91-5区  
トレンチ西側断面図

### 91-5区

#### 調査の概要（図版12）

箱作今池遺跡の北部に位置し（第38図）、国道26号線に南面する調査区である。2m×2mのトレンチを設定して調査を実施した（第41図）。

周辺地形などから盛土が施されていることが当初から予想されたが、掘削の結果、現地表下1m以上にわたることが確認された。この盛土下に旧耕作土と遺物を包含する可能性のある暗黄灰色シルト層を確認したが（第42図）、遺物・遺構ともに認められなかった。



第43図 田山遺跡調査区位置図

### 第9節 田山遺跡

#### 91-2区

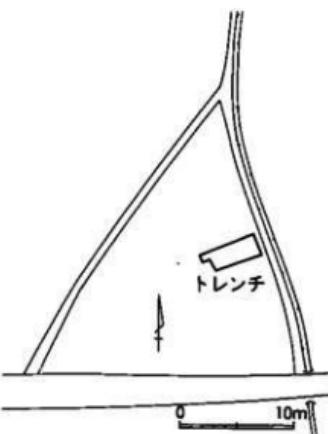
##### a. 調査の概要（図版13）

調査区は遺跡南部の比較的高所に

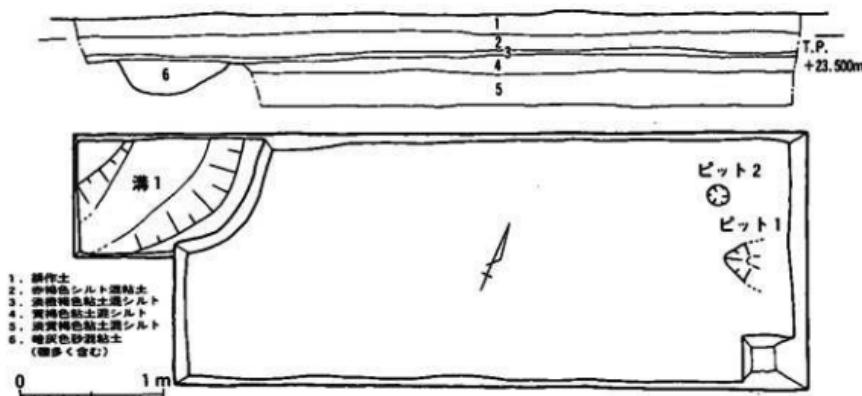
位置し(第43図)、田山稻荷神社への参道に面する。1ヵ所のトレンチを設定して調査を実施した(第44図)。

#### b. 遺構

ピット2、溝1を検出している(第45図)。  
 ピット1: トレンチの東端近くで検出した。側溝にかかる形で検出したため、平面形・規模は不明であるが、径約30cm程と推定され、深さは30cm足らずである。暗黄灰色の礫混じりシルトを埋土とする。  
 ピット2: ピット1に近接して検出された径15cm程の小規模で浅いピットであるが、性格は不明である。



第44図 田山遺跡91-2区  
トレンチ位置図

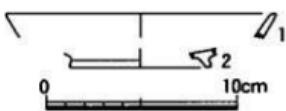


第45図 田山遺跡91-2区 トレンチ平面図・北側断面図

溝1: 南北方向に延びる溝と思われる遺構である。当初設定したトレソチの南端で検出したため、さらにトレソチを拡張して平面形を確認したところ、トレソチ内では緩やかに湾曲するように見受けられた。幅は60~80cm、検出面からの深さ25cm前後で、覆土は礫を多量に含む暗灰色砂混粘土である。

c. 遺物 (図版13)

上層から土師器、瓦器、須恵器など、概ね中世のものと思われる遺物が出土した。1は、須恵器壺身の口縁部である。2は、黒色土器の高台部で、内黒のいわゆるA類とされるものである（第46図）。



第46図 田山遺跡91-2区  
出土遺物



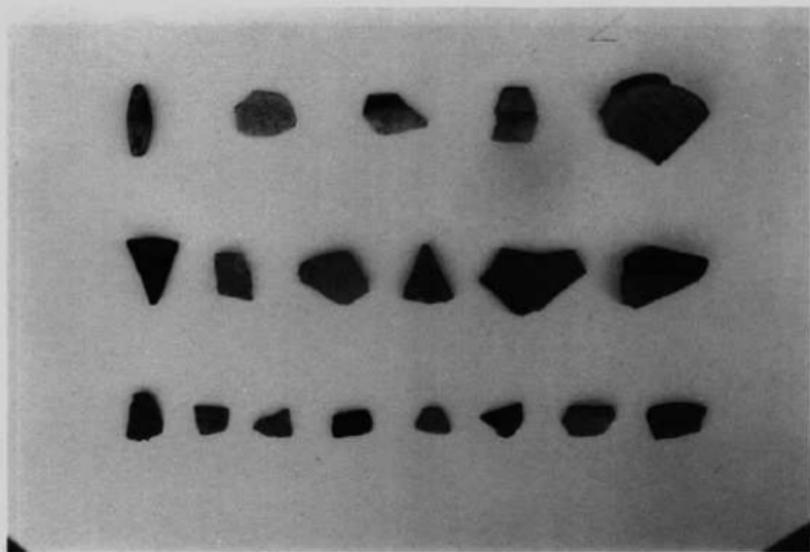
平野寺(長楽寺)跡 遠景



平野寺(長楽寺)跡91-1区 トレンチ全景(東より)



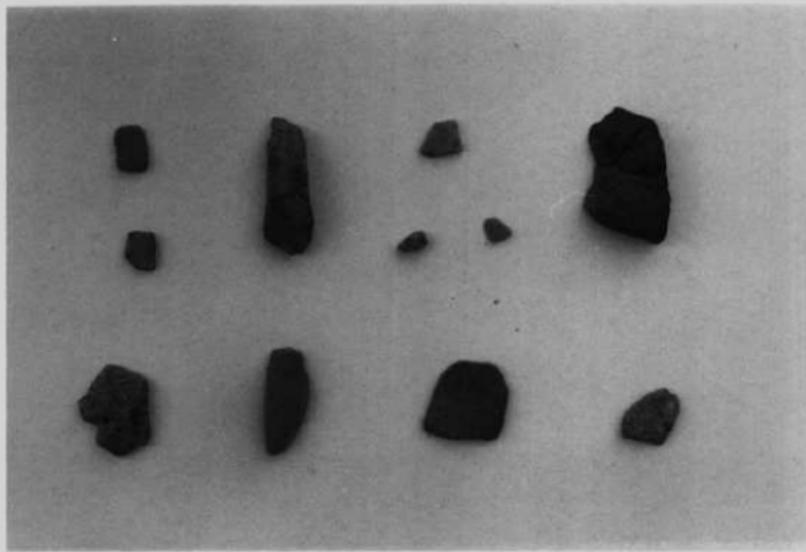
馬川遺跡90-3区 トレンチ全景(南より)



馬川遺跡90-3区 出土遺物



馬川遺跡91-1区 トレンチ全景(南西より)



馬川遺跡91-1区 出土遺物



黒田西遺跡91-1区 トレンチ全景(北より)



神光寺(蓮池)遺跡91-2区 トレンチ全景(東より)



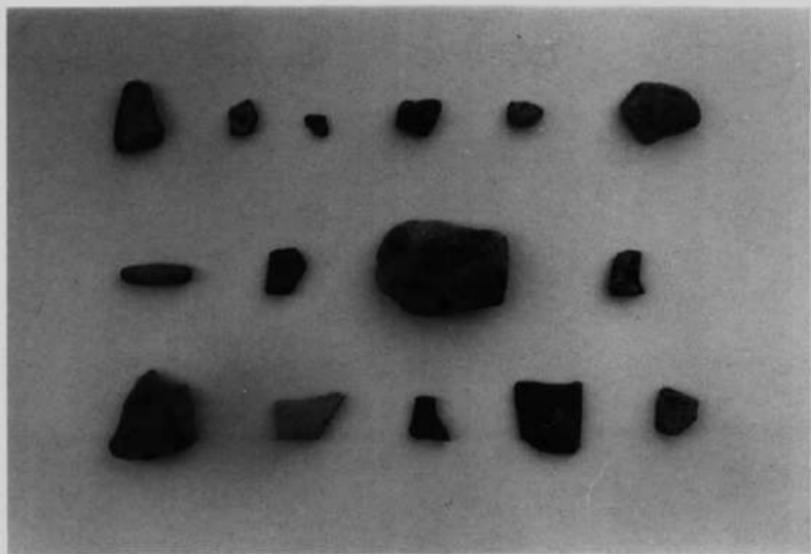
鳥取南遺跡91-2区 トレンチ全景(南西より)



鳥取南遺跡91-3区 トレンチ全景(南より)



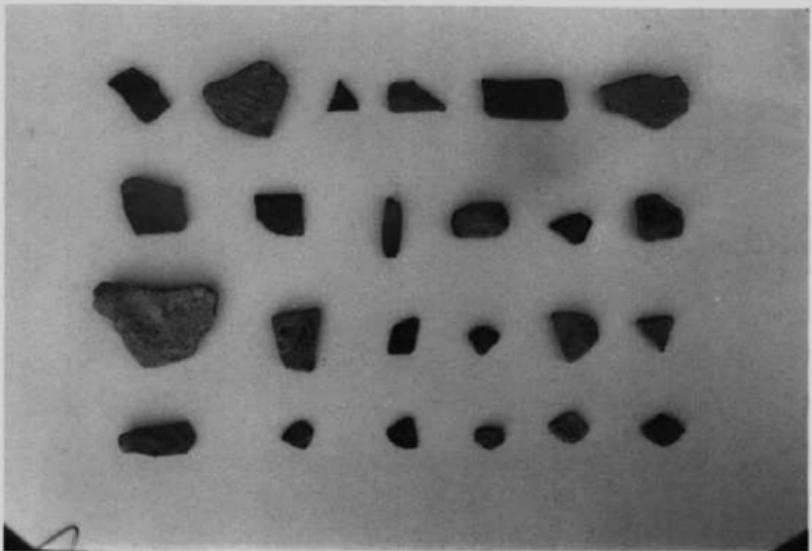
鳥取南遺跡91-3区 トレンチ西側断面



鳥取南遺跡91-3区 出土遺物



西鳥取遺跡90-2区 トレンチ全景(東より)



西鳥取遺跡90-2区 出土遺物



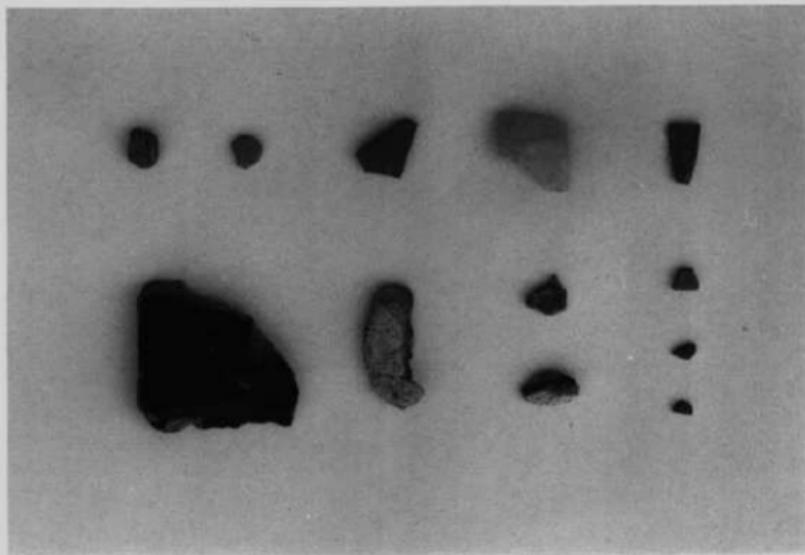
西鳥取遺跡91-1区 トレンチ全景(北より)



戎遺跡91-2区 トレンチ全景(北より)



戎遺跡91-2区 トレンチ北側断面



戎遺跡91-2区 出土遺物



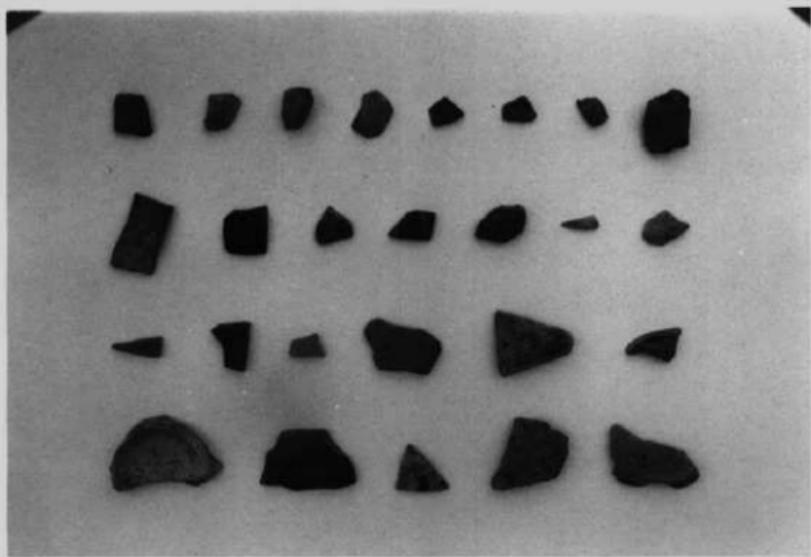
戎遺跡91-1区 トレンチ全景(東より)



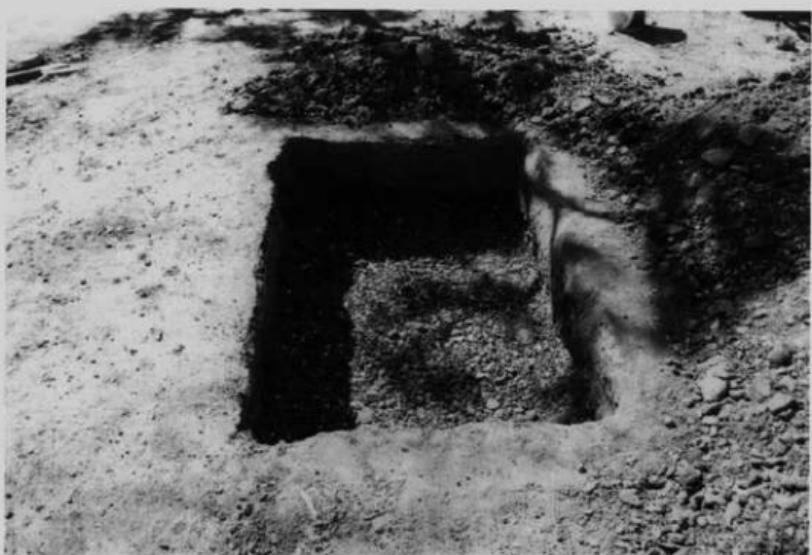
戎遺跡91-1区 トレンチ南側断面



箱作今池遺跡90-8区 トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡90-8区 出土遺物



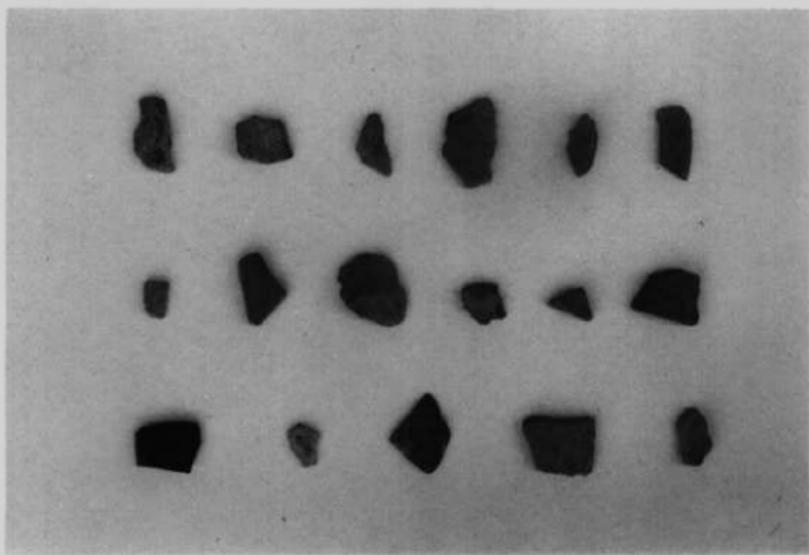
箱作今池遺跡90-7区 トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡91-5区 トレンチ全景(東より)



田山遺跡91-2区 トレンチ全景(東より)



田山遺跡91-2区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 XII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要VII

平成4年3月

発行：阪南市教育委員会社会教育課  
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社  
和歌山市吹屋町5丁目54